

校内の教師同士による対話を通して、自校の指導ツールの改良を図る本コーナー。
今号は、富山県・私立片山学園中学校・高校が、文理選択の仕上げとして活用している
文理宣言シートについて、1年前に同シートを使用した2年生とともに検討した。

改良！指導ツール

ビフォー
アフター

生徒と
ともに！

Before

STEP 3 「意思」を言葉にする

*ボールペンで記入しましょう。

1. 選択するほうを○で囲んでください。

2. 1を選択する理由を詳細に書いてください。

3. 理科、社会の選択について、選択するほうを○で囲んでください。

文系	社会	世界史	地理
理系	社会	日本史	地理
	理科	物理	生物

*文系は全員日本史履修、理系は全員化学・化学基礎履修です。

4. 志望学問領域を3つまで書いてください。

第1志望学問領域	
第2志望学問領域	
第3志望学問領域	

5. 上記文理選択についての保護者の方からの応援メッセージ

提出期限 11/11(月)

STEP1 では自己理解
に、STEP2 では学問
研究などに生徒は取
り組んだ。その上で
STEP3 である本シ
ートに取り組む

ねらい

文理選択に向けて、自己分析や適性診断の結果を踏まえた学問研究に取り組んできた1年生が、総仕上げとして、文理選択の理由を文章にまとめて担任に伝えることで、主体的な進路選択の第一歩を踏み出し、学習へのモチベーションを高めることがねらい。

課題

- 1 文理選択に向けて深めてきた自己理解、学問研究の成果を踏まえて、文理選択の理由を説得力のある文章にまとめさせたい。
- 2 文理選択を通して、希望進路実現のために今後の高校生活で力を入れるべきことを考えさせたい。

改良会議実施校

富山県・私立 片山学園中学校・高校



教頭、進路指導部長

森内梨絵

もりうち・リエ

教職歴11年。同校に赴任して12年目。



教務主任、数学科主任

山形武司

やまがた・たけし

教職歴11年。同校に赴任して12年目。



進路指導部、理科主任

下条丈士

げじょう・たけし

教職歴10年。同校に赴任して11年目。



2年生理系クラス

加藤希実

かとう・のぞみ

医療関係の職業に興味があり、理系を選択。



2年生文系クラス

永井雄一朗

ながい・ゆういちろう

吹奏楽部所属。法学系統の学部を志望し、文系を選択。

富山県・私立片山学園中学校・高校

◎「孝・恩・徳」を教育理念に掲げる富山県初の中高一貫校。中高6年間に4期に分け、それぞれの到達目標を設定し、第1志望大学合格のための学力・体力・人間力を養う。主体的な学びを重視するアクティブ・ラーニングを、全学年・全教科で実践。2021年4月に、探究活動を主軸とした「国際科学探究コース」を新設。

◎設立 2005(平成17)年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約100人

◎2020年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、北海道大、東北大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大などに49人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、東京理科大、早稲田大、同志社大などに延べ262人が合格。

◎URL <https://www.katayamagakuen.jp/>

1年生 文理宣言シート



文理どちらを選んだのかを聞く前に、そこに至るまでに追究した「自分」を書くようにしたことで、シートに取り組む生徒の気持ちが大きく変わりそうです。2年生や3年生になった後も、学部・学科や志望校を考える際になどに、生徒が見返せるものになるとよいですね。



自己理解、学問研究、そして文理宣言と、文理選択の流れは円滑だと思っていましたが、丁寧に補足説明しなければ、それらが連動していることに生徒は気づかないシートになっていたことがわかりました。生徒との対話を通して、自分の思い込みから抜け出すことができました。



文理宣言シートに至るまでに考えてきたことを、生徒が整理しやすくなったと思います。これまでは、生徒が文理を選択した理由を「書けない」点ばかりに目が向いていましたが、書くための材料を整理することができるシートになっていなかったのだと気がつきました。



学校でプリントを受け取っても、何が目的なのかを深く考えないまま取り組むことが多かったんです。でも今回、先生方のお話を聞いて、この宣言シートの意義がきちんと理解できました。何かに取り組む際には、その目的や意義を理解しようと努める姿勢を大事にしたいと思いました。



この宣言シートに限らず、先生方には、私たち生徒の「主観」をどんどん聞いていただきたいと思います。自分の考えであれば、あたり障りのないことを適当に書いてやり過ごすことはできません。そうした機会を通じて、私たちは自分の信念、ポリシーに気づいていくのだと思います。

どのような対話を通じて改良できたのかは、**次ページで!!**



After

STEP3 「これからの自分」を言葉にしよう

A B C の視点から「自分」について考えて、文理を宣言しよう

A これまでの自分

★STEP1で分かった自分の好きなことや特技、長所、性格、大切にしている価値観などの中から、「これからの自分」を考える上で重要なものを書き出そう。

B 未来の自分

★STEP2で分かった適性のある仕事と関連する学問領域、また、適性のある学問などの中から、「これからの自分」を考える上で重要なものを書き出そう。

それまでに取り組んできたSTEP1、STEP2の内容を踏まえて、文理選択に必要な事柄を振り返るためのスペースを設けた

C 自分の現状

★得意教科や苦手教科、保護者の希望や友人の意見など、「これからの自分」を考える上で重要なものを書き出そう。

A、B以外にも文理選択に影響を及ぼす得意教科や苦手教科、保護者の意向などを整理できるように、「自分の現状」の欄を設けた

A B C を踏まえて、「これからの自分」について書こう

★今後の高校生活をどう過ごしたいか・どう過ごすべきか、A B C で追究した自分のことを踏まえて書いてみよう。教科・科目や学校行事など、具体的に頑張りたいことがあればそれを交えて書いてみよう。

「これからの自分」の第一歩として私は、**文系**・**理系** を選びます

※どちらかを○で囲む

改良ポイント

- STEP3の文理宣言シート作成に至るまでに取り組んだ自己理解、学問研究を振り返るスペースを設ける。
- 自己理解や学問研究以外に、文理選択に影響を及ぼす要素を整理する欄も設けることで、生徒の思いを棚卸しさせやすくする。
- 文理選択以降の「これからの自分」について語らせた上で、最後に文系・理系を宣言させる。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」をご覧ください。

実録

改良会議

先生と生徒の
対話のダイジェスト

ツール使用者である生徒とともに 文理選択に影響を与える要素を 洗い出し、改良点を明確化

教師が感じている課題点を生徒に確認

河野 先生方だけで行ってきた本コーナーの改良会議に、初めて生徒にも参加してもらいました。実際に指導ツールを使用した生徒とともに、その改良のための議論を行うという試みです。まずは、先生方から「文理宣言シート」の課題点についてご説明いただけますか。

森内 STEP1で自己理解、STEP2で学問研究に取り組んできた生徒が、STEP3として文理の選択結果とその理由を文章で表明するのが本シートです。STEP1、2に比べて、STEP3に取り組む生徒のモチベーションは低く、文理選択の理由を、自身の経験や希望進路にひもづけながら論理的に表現できない生徒が少なからずいるのが現状です。そのため、担任によるシートの添削が必要となり、生徒、教師双方が負担を感じるケースも見られます。

山形 過去の経験を振り返り、自分が大切にしている価値観に立ち返って文理選択をした過程を書く生徒は少なく、選択の理由を箇条書きす

るだけの生徒もいます。3年次の志望理由書の作成などを考えると、文理選択の理由も文章で表現できるようになってほしいと思います。

下条 「文理宣言シート」に取り組むことで、その後の高校生活、そして大学入試に向けてやる気を高めてもらいたいのですが、進路に対する熱意を感じさせる宣言はまだ多くありません。ですが、面談などの場では多くの生徒は自分の思いを話してくれます。

河野 では、生徒の2人に、実際に1年前にこのシートにどのように取り組んだのかを聞いてみましょう。

永井（生徒） 僕は、学校の委員会活動で役職に就き、活動する中で、組織のあり方を勉強したいと思うようになり、文系を選びました。でも、文理宣言シートで、そうした自分の経験を交えて文系を選んだ理由を書けたかと聞かれると、書けていなかったように思います。

加藤（生徒） 私は文系科目が得意で、適性診断でも文系向きと診断されました。でも、医療分野の仕事に関心があり、本当にぎりぎりまで悩

改良会議ファシリテーター



VIEW21編集部長
高次領域担当責任者
河野仙一
こうの・せんいち

今回、生徒から意見を聞いたことで、ツールの改良の方向性が明確化されました。生徒とともに教育活動の改善について考えることは、今後、多くの学校が取り組む価値のあるものだと確信しました。

んで理系を選びましたが、そうした葛藤までは文理宣言シートには書きませんでした。

森内 自身の経験からの気づきや悩みに向き合う中で葛藤は、進路選択の大切なプロセスです。生徒がそれを率直に書き留められるシートに改良したいです。自己理解や学問研究で深めたことは、シートを書く際に振り返りましたか。

永井（生徒） 今は、先生方の話を聞いて文理宣言シートとそれまでの取り組みとのつながりが理解できましたが、シートを書いた時には、それまでの取り組みを踏まえようという意識は持っていなかったと思います。シートは、最初に文・理どちらかを選ぶことから始まっていますが、まず、自己理解や学問研究を通して考えたことを振り返ってから、最後に文理宣言をする流れがよいかもしれません。

山形 自己理解、学問研究での気づきを整理す

改良会議を振り返って



るのはもちろん、自分の過去の経験、さらには保護者の希望や友人の意見など、広い視野で文理選択に向き合ってほしいです。そうして、理想の将来像や成功体験だけでなく、現実の悩みや葛藤も含めて文理選択に影響を与えている要素を言葉にした上で、文理宣言をしていることを生徒が自覚できるシートにしたいです。

永井（生徒） 私も、部活動の活動目標を決める際に、記述式のアンケートを作成したことがあります。その回答を見て、「意図が伝わっていない」と反省した経験があります。質問の目的や意図が分からないと、回答する側は答えを書くことが難しいのです。私たち生徒に読解力、想像力が不足していることも一因ですが、シート上の「選択する理由を詳細に書いてください」という一文が、私たち生徒にとっては何を求めているのが理解しづらかったのかもしれない。

目的を見直すことで指導が変わる

下条 文理選択の理由を第三者も納得する文章にして書けるように、担任の先生が添削も行ってききましたが、文章化という作業をどう受け止めていましたか。

加藤（生徒） 書くことで改めて今の自分に向き合ったり、大切にしていた思いに気づいたりすることはよくあります。文理選択は進路選択の大切な第一歩ですから、そこで考えたことを文章で残しておくことは必要だと思います。

森内 2人の話を聞いて、しっかりとした文章で文理選択の理由を書くということ以上に、今の自分の思いを自分の言葉で書くということが、文理宣言シートの目的であるべきだと気づきました。文章の完成度を高めるための添削に時間をかけるのではなく、生徒の思いをくみ取るこ

ツールを作成した教師の認識とそれを使った生徒の認識の差が分かったこと、生徒と対話する中で教師が想定していたゴールさえも見直す経験ができたことが、有意義でした。

私の想像以上に生徒は深く考え、そして私と違う考えを持っていることに感動しました。生徒と一緒に考えることで、1つのシートから大きな気づきを得られるのだと驚きました。

生徒がどのような思いでツールを使っていたのか、生徒自身の言葉で聞くまでは気づかなかったことがたくさんありました。今後も生徒の声に耳を傾けていきたいです。

改良したいのに、どうすべきか分からない……

指導ツールを募集しています！

「改良！ 指導ツール ビフォーアフター」では、取材にご協力いただける先生及び取材で検討させていただく「指導ツール」を募集しています。「自校で長年使っているツールを見直したい」「ツールのより効果的な活用法を検討したい」といった、課題意識をお持ちの学校のご応募をお待ちしております。

〈個人情報の取り扱いについて〉をご確認いただき、必要事項①～④をご入力の上、指導ツールを添付して下記のe-mailアドレスにご送信ください。

*送信前に一度、生徒情報が削除されているかご確認をお願いいたします

- ① 学校名・お名前
 - ② 分掌・ご教職歴
 - ③ ツールの内容（目的・活用時期・活用方法）
 - ④ ツールに対する課題意識、改善要望
- view21_since-1975@mail.benesse.co.jp

〈個人情報の取り扱いについて〉 この「改良！ 指導ツール ビフォーアフター」のツール募集でご提供いただく個人情報は、今後の企画を検討する目的で利用いたします。お客様の意思によりご提供いただけない部分がある場合、手続き・サービス等に支障が生じることがあります。また、商品発送等で個人情報の取り扱いを業務委託しますが、厳重に委託先を管理・指導します。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口（0120-924721、通話料無料、年末年始を除く、9時～21時）にて承ります。（株）ベネッセコーポレーション CPO（個人情報保護最高責任者）上記をご承諾くださる方はご送信ください。

とに、より時間をかけたいと思います。

河野 文理宣言シートの構成が整理されただけでなく、シートのも見直すことができました。とで、教師は文理宣言シートをどのように活用すべきかが明らかになりました。教育活動の目的を丁寧問い直してみることで、何に時間をかけるべきで、何を効率化すればよいか明確になるのだと分かりました。